



横浜市立倉田小学校  
幼保小連携推進地区事業推進校

令和3年 11月30日

## 学校だより

“つながり いきいき 倉田っ子”

# 12月号

学校ホームページ URL <https://www.edu.city.yokohama.jp/school/es/kurata>



### 竹の節のように

～より強く よりしなやかに～

校長 末松 隆一郎

街のそこかしこにできた落ち葉の絨毯が朝露に煌めき、秋の終わりと冬の始まりのハーモニーを奏でる頃となりました。

11月20日(土)、運動会が、お陰様をもちまして無事開催されました。予定より一ヶ月延びたことで寒さが心配されましたが、運動会の日まで冬が待っていてくれたかのように、当日も含め、開会式(11/16)から小春日和の日が続き、種々制約もある中ですが、素晴らしい動きを子ども達は見せてくれました。分散開催ではありましたが、子ども達のがんばりが生む感動を保護者の皆様、倉田小教職員と共有できたことを、心から嬉しく幸せに、そして誇りに思います。ありがとうございました。

今年度は4月当初から感染拡大によるまん延防止等重点措置や緊急事態宣言の発令、それに伴う分散登校等々、「節目」となる行事や活動が数多く延期や中止となってしまいました。運動会での子ども達の取組や成長の過程・姿を見て、あらためて「節目(節)」の大切さや役割について考えました。

「節」が明確な植物の代表といえば「竹」。「竹」は、古くから日本を象徴する植物の一つです。「竹取物語」の一節に、「よろずの事に使いけり」とあるように、扇子や提灯、傘、その他様々な生活用品や建材として古より利用されてきました。また、松・竹・梅の三つを合わせて「松竹梅」と呼び、縁起物として称するなど、私たちの生活の中に深く根付いている植物です。また、青々と凛として伸びる様子から、榊(さかき)とともに、清浄な植物の一つともされています。これらのことから、竹がすくすくと青い空に向かい真っすぐに伸びる様子は、子ども達の成長の姿としても例えられます。



しかし、竹は、初めからひたすら真っすぐな成長をするのではなく、竹の子の段階から少しずつその成長の過程に「節」を作って伸びていきます。言い換えると、「竹は節を作って、それを起点により高く成長する」のです。そして、「節」があることによって、強風による横からの強い風を受けても、雪の重みに反り返っても、折れることなく、しなやかに、しっかりと竹は伸びていきます。竹が強くしなやかに伸び続ける生命力の源が「節」です。強い風や雪の重みにも耐え、弓のように曲がりながらも、また元に戻り空に向かって伸びていけるのも「節」があるからなのです。

一つ一つの「節」を成長の起点として更に伸びていく姿、それは子ども達の成長の過程においても同じだと思います。一つの目標に向かってみんなでがんばったこと、辛抱強く取り組んだこと、失敗や敗北で辛かったこと、そのような経験一つ一つが、子ども達の、そして人間としての成長の「節」になるのではないかと思います。

様々な障壁を乗り越えて開催された今年の運動会。それぞれの子ども達の中に素晴らしい「節」ができたことと思います。この新たな「節」をもとに、更に強くたくましくしなやかに成長して欲しいと思います。